

自然体験プログラム紹介

自然体験プログラムは、文部科学省の学習指導要領に基づいて作られています。
安心して里山の自然の恵みを思う存分、五感で味わってください。

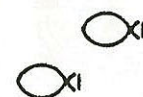
①川の自然体験プログラム 生きものの生態を知る

水辺の生きもののしらべ

栗山町の川にはたくさんの生きものがすんでいます。
魚類だけではなく水生昆虫なども捕獲し、
その種類や生態を知ることので川の生態系を学びましょう。

- 二〜三時間 ● 料金(税抜) 一、二〇〇円
- 季節 通年 ● 人数 四〇名まで

※十一月〜三月までは、使用できるフィールドに限りがあるため、最大催行人数は二〇名となります。



②山の自然体験プログラム 山を楽しむ

夜の ネイチャーハイク

普段歩く機会のない森や林を
夜に散策してみよう。
五感を使って生きものの気配を感じ取ろう！

- 一〜二時間 ● 料金(税抜) 一、〇〇〇円
- 季節 通年 ● 人数 四〇名まで

③農の自然体験プログラム

里山の暮らしを学び楽しむ

野菜栽培・収穫体験

ハサンベツ里山の畑を使って、
野菜の栽培や収穫体験ができます。

時期によっては、とれたての野菜を味わえます。

- 一〜二時間 ● 料金(税抜) 一、〇〇〇円
- 季節 六月〜十月、一月〜三月 ● 人数 八〇名まで



ふる里山通信 第一号

人が

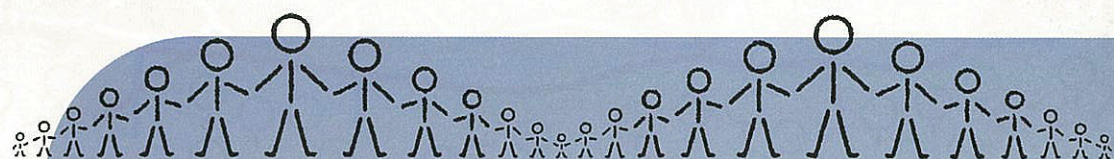
自然の恵みを

守り育てる。

自然が

人の心を

守り育てる。



ふる里山くり山

「ふる里山くり山」は、里山の自然を通じ、
ふるさとを愛する心を育てる取り組み。
生まれ育った栗山町の人や家族、自然、
ふるさとを大切に思う気持ちや愛着を抱いてもらいたい。
そんな思いから、活動の総称としてつけられた名前です。
今から約三十年前、この里山の森で、
人が自然の恵みを守り育てていくことの大切さを見直し、
多くの町民の皆さんと協力し合い、
心から愛される里山環境を現実の夢にしてみました。
四季が織りなす自然に触れ、生き物の命を感じ、
自然と人が共生する姿を体感する。
そしていつしか、その里山体験が町民の誰もが心に抱く
ふるさとの風景そのものになっていく。
それが「ふる里山くり山」の変わらぬ目標です。
どうか、この活動が、皆さんの心へと届きますように。





農



田んぼには水生昆虫がたくさんいて、空に赤とんぼが飛んでいる。田んぼの四季の表情が、里山で遊ぶ子どもの表情を豊かにする。

川

魚や水生昆虫など三十種以上の生きものが暮らす小川。生きものの命と出会える場所。小川は、人の感性を豊かに育むことができる。



里山ってどんな山？

自然の中で遊びまわっているとき、子どもの笑顔は最高の輝きを放っている。そう感じるときがあります。

例えば、私たちの心の中には、いつも子どもの頃に見た

穏やかな自然の原風景がありました。

それは思い浮かべるたび、心の奥があたたかくなる風景です。

「遊びが自然と縁遠くなり、知識だけで大人になっていくと心配される、

今の子どもたちの心の中にも、ふるさとの風景を残してあげたい。

農の営み、森・水辺・田畑の環境が整った理想の里山をつくってあげたい。」

そんな思いに始まり、今や水辺には30種以上の魚や昆虫が生息し、森や田畑は子どもたちの体験フィールドとして活用されています。

「ふる里山くり山」では、実際の川や山を教科書に、

子どもたちが五感で自然を体感できる機会をもっとふやしていくつもりです。

里山って、どんな山？ その問いに答られないほどたくさんさんの魅力を、

「ふる里山くり山」は、これからもつくっていききたいと考えています。



蝶



昆虫や植物と共生するオオムラサキは、里山の象徴的生きもの。オオムラサキを守るとは、里山の森を守ること。

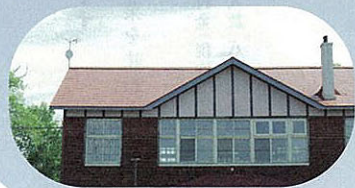
蛍



栗山の里山は北海道でも有数の蛍の生息地。蛍は里山の水辺の豊かさを象徴する生き物。

ふる里山の歴史

- ① 昭和60年 御大師山で国蝶オオムラサキの生息が確認される。
- ② 昭和61年 町民活動によるオオムラサキの森づくりが始まる。
- ③ 昭和63年 環境庁「ふるさといきものの里」に指定される。
- ④ 平成2年 御大師山の山林を町が購入し、児童生徒に対する体験教育が始まる。バブル経済の名残がある開発の時代にあった中、「人と自然が共生する里山」をテーマにし、官民協働による里山づくりが本格化した。
- ⑤ 平成11年 教育環境を充実するため、ハサンベツ地区の離農跡地24haを町で購入。
- ⑥ 平成12年 町民による「ハサンベツ里山20年計画」が始まる。農村の暮らし、谷津田の風景の再現をコンセプトに、町民の知恵・労力・資金による里山づくりが進められ、里山を象徴する生きものが帰ってきた。
- ⑦ 平成20年 「ふるさと教育」が本格化し、自然(里山)体験がその中心となる。学校教育(学習指導要領)に対応した自然体験プログラムが構築される。各教科の目標と連動したプログラムは全国的にも珍しい。
- ⑧ 平成21年 廃校となった雨煙別小学校が再生される「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」本造校舎の再生に、卒業生をはじめ延千五百の町民ボランティアが工事に参加。公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団の支援を受け、体験型の宿泊研修施設として生まれ変わり、「ふるさと教育」の拠点として活用される。



「ふるさと教育」の原点を忘れずに

特定非営利活動法人 雨煙別学校 諸橋 淳



教育委員会からの委託事業「ふるさと体験教育事業」も今年で7年目を迎え、今では町内の子どもたちに学校での授業を中心に多くの自然体験プログラムを通した学びを提供できるまでに至っています。また、町外の小中学校の利用も増え、栗山町は自然体験学習の充実した地域として認知されています。自然体験を通し五感を刺激し学ぶことで、考える力や感受性を育める。故郷への愛着や誇りを持てる。私たちが子どもたちと一緒に活動できるのも、町民の皆さんのおかげです。今後も栗山の宝物を守り伝える活動を続けていくつもりです。

愛着と誇りを持てる、ふるさとに

栗山町教育委員会 教育長 南條 宏



ふるさと教育は、ふるさと栗山への愛着と誇りを持つてほしいと願い、豊かな自然環境を活用し学校と家庭と地域が一体となって推進する教育です。その象徴が「人と自然が共生するための環境保全活動」と自然体験教育の拠点となる「ハサンベツ里山」です。子どもたちが栗山の自然に触れて学べるこの教育環境は約30年の町民の環境保全の賜物です。これからも「ふる里山くり山」の活動を指針に、関係機関・団体・町民の皆さまにご協力をいただきながら、この貴重なフィールドを次世代へと守り伝えていきたいと考えています。